

国民健康保険システム標準化検討会

議事概要

【日時】 令和 6 年 1 月 25 日（木） 16:00～17:00

【場所】 オンライン会議

【出席者（敬称略）】

（座長）

後藤 省二 株式会社地域情報化研究所 代表取締役社長

（構成員）

若月 雅徳 北海道保健福祉部健康安全局国保医療課 主事

伊藤 貴 仙台市健康福祉局保険高齢部保険年金課長（欠席）

井上 源夫 宇都宮市保健福祉部保険年金課 課長補佐

市川 雄太 船橋市企画財政部行政経営課 主任主事

宮脇 正治 中野区区民部保険医療課長

前田 克也 都城市健康部保険年金課長

三浦 裕和 株式会社 RKKCS 保険福祉システム部 部長

築瀬 智史 株式会社 TKC 福祉情報システム第三技術部 課長（代理出席）

小林 大士 株式会社電算 ソリューション 2 部

石田 淳一 株式会社両備システムズ 公共ソリューションカンパニー
福祉国保情報サービス部 次長

石井 良介 行政システム九州株式会社 ソリューションサポート部 部長

岩田 孝一 日本電気株式会社 社会公共ソリューション開発部門 シニアプロフェッショナル

広田 和治 日本電子計算株式会社 公共事業部事業企画部 企画担当

大村 周久 富士通 Japan 株式会社 ソリューション開発本部
社会保障・フロントソリューション事業部 シニアディレクター

（オブザーバー）

外圍 暖 デジタル庁デジタル社会共通機能グループ地方業務システム
基盤チーム 統括官付参事官付参事官補佐

水村 将樹 デジタル庁デジタル社会共通機能グループ地方業務システム
基盤チーム 統括官付参事官付参事官補佐

千葉 大右 デジタル庁デジタル社会共通機能グループ地方業務システム
基盤チーム 地方業務標準化エキスパート

池端 桃子 デジタル庁デジタル社会共通機能グループ地方業務システム
基盤チーム 地方業務標準化エキスパート

谷口 潤 デジタル庁デジタル社会共通機能グループ地方業務システム

基盤チーム 統括官付参事官付主査

丸尾 豊	総務省自治行政局デジタル基盤推進室 課長補佐
小山内 崇矩	総務省自治行政局デジタル基盤推進室 課長補佐
笹子 宗一郎	厚生労働省保険局国民健康保険課長
酒井 友徳	厚生労働省保険局国民健康保険課課長補佐
柴田 和美	厚生労働省保険局国民健康保険課企画法令係
杉山 勝治	厚生労働省保険局国民健康保険課企画法令係
佐藤 成也	厚生労働省保険局国民健康保険課
島添 悟亨	厚生労働省大臣官房情報化担当参事官室 室長補佐
巢瀬 博臣	厚生労働省大臣官房情報化担当参事官室 室長補佐
吉本 明平	一般財団法人全国地域情報化推進協会企画部 担当部長

【次第】

1. 開会
2. 出席状況報告等
3. 座長挨拶
4. 検討会説明
5. 質疑応答
6. 閉会

【配布資料】

- ・ 会議次第
- ・ 出席者一覧
- ・ 【資料 No. 1】 第 3 回検討会 進め方について
- ・ 【資料 No. 2】 第 3 回検討会 標準仕様書【第 1.2 版】公開に向けた対応について
- ・ 【資料 No. 3】 標準仕様書【第 1.2 版】(案)
- ・ 【資料 No. 4】 検討・課題事項一覧_国保
- ・ 【資料 No. 5】 今後の予定について

【ご意見概要】

＜特定健診 WT の予定について＞

- 今後子ども・子育て支援金の制度改正等もあり、それに伴い保険料の算定も大きく変わってくるため、引き続き標準仕様書について検討していきたい。
また、特定健診 WT の今年度中の開催予定等があれば教えてほしい。
- 特定健診の仕様書のたたき台を作成し、全国意見照会を行った。現在、事務局で照会結果の整理を進めており、2 月中下旬頃に特定健診 WT を開催予定である。また、3 月末の【第 0.9 版】の公開に向け、3 月頃に書面にて本検討会にお諮りする予定である。

【事務局補足】

特定健診標準仕様書【第0.9版】について、検討会にてお諮りするとしておりますが、「特定健診等ワーキングチーム 開催要綱」第3 特定健診等ワーキングチーム 4 その他（2）にて、「全国意見照会、標準仕様書の公開、その他座長が必要と認める場合は、国民健康保険システム標準化検討会への報告を行うものとする。」としております。検討会にてお伝えした「お諮りする」は「検討会への報告」の解釈誤りとなります。

→ 動向が気になるため、引き続き情報提供してほしい。

＜子ども・子育て支援金について＞

- 医療保険部会でも子ども・子育て支援金の話が上がり、これから詳細を詰めていくところ。今の標準仕様書を見ると、後期高齢者支援金を単に「支援金」と書いてあるところが多く、今後「子ども・子育て支援金」も入ってくることを想定し、「後期高齢者支援金」という文言に書き直してほしい。

→ 今までこの業界では支援金の一つだったが、今後複数出てくると明示的な表示も必要とのご意見。

→ 意見の通り判別が必要なため、文言はWTにて意見をもらいながら標準仕様書に定めていく。

＜資料No.2 p.14 対応見送りの経緯について＞

- 前回のWTでこの話が出てきた経緯として、コストや手間の軽減が挙げられていた。対応を見送った結果、検討の前提となったコスト面等の懸念事項は残るため、その点は引き続き議論するという整理でよい。

→ 一度事務局から提起したものの、先般のWT後の構成員等からの意見も踏まえ、一旦【第1.2版】での対応自体は見送る。理由はp.14に記載の通り。全ての自治体において、実装必須機能が必要なのかは、給付業務に限らずになるかもしれないが、コスト面を含め検討の余地があると考えているため、引き続き検討したい。

ただし、この件については国保のみならず、デジタル庁や他の業務の動向も踏まえ検討を進めていきたい。

→ この件はベンダの方が直接的な影響が大きいと思う。ただ、中規模自治体と大規模自治体にシステム提供をしているベンダに関しては、給付機能は必要なためほぼ影響はないと思う。ベンダの観点から、この件について思うところがあれば参考までに聞いておきたい。

→ ベンダの方々、p.14について何かご所見ご所感があれば発言してもらえるとありがたい。おそらくこの検討会に参加している事業者のシステムについては、きちんと給付管理の実装をしてい

ると見受けられる。

<資料No.2 p. 15 マイナンバーカードと健康保険証の一体化について>

- 資料 p. 15 にマイナンバーカードと健康保険証の一体化の話が載っている。施行期日は12月2日で決まったが、来年度の改版は大体どのくらいの時期を目安としているのか。

→ マイナンバーカードと健康保険証の一体化に係る機能要件については、来年度早々に改版のスケジュールを立てたい。一方、標準仕様書の改定は、原則8月31日または1月31日とされていることから、デジタル庁との連携・相談が必要と考えている。

また、当該機能の開発について、ベンダには早々に開発に着手していただく必要があり、昨年12月22日に厚生労働省主催でベンダ向け説明会が開催されている。市町村事務処理標準システムにおける改修概要が示されているため、これを参考に開発を進めてもらいたい。

→ 状況は把握した。1月の公開だとさすがに遅いと思うため、8月公開に向け、途中経過も含め確認したい。

→ 他の構成員の方から発言はないか。概ね質問も尽きたようなので、これまでの説明内容について構成員の皆様にご審議をお願いする。

検討会での実施内容、今後の進め方について、異議はないか。異議のある方は挙手ボタンを押して発言してほしい。

異議なしと認める。それでは皆了解したということで、その通り取り扱いをさせよう。

<資料No.5の説明>

- 現在、国会で子ども・子育て支援金という非常に大きな法律が出てくるということだが、2月中旬くらいに法案が出ると聞いている。そうなった場合、その内容が見えた時点で臨時的に検討会を開催というのは検討される予定か。今のこども未来戦略の内容だと、26年度から支援金を開始するという。マイナ保険証もだが、子ども・子育て支援金はさらに影響が大きく、後期高齢者支援金を入れたときくらいの影響があると思っている。

しかも戦略の内容を見ると、18歳未満の子どもがいる世帯には均等割をかけない等複雑な話も書いてある。標準仕様書の改定をかなり急いでやらないと法改正に間に合わないという懸念をしている。

→ こども未来戦略における支援金について、かなり大きなインパクトがあると考えている。現在、こども家庭庁から制度の大枠を示されていて、こども家庭庁、厚生労働省、そして我々の3者で話をしているところ。制度の詳細な部分は国として検討し、システムもそれに基づいての検討となる。臨時の検討会は必要に応じて開催させていただく。

- 標準仕様書への影響について。今回調定明細が変わるということで、収納や滞納の方にも大きな改修が発生することを懸念している。これと標準化を並行して本当にやり切れるのか、極論からするとそういった検討までしないといけないレベルだと思う。事務局、厚生労働省や委員の皆と協力しながら、優先順位をつけ、法改正だけでもなんとか乗り切りたい。
- 自治体、事業者や国の関係府庁の方々も大変関心があり、それぞれで早急に議論を進めていかないといけない。それを物理的に実装し、サービスインするのに間に合うかという一番大事な部分も念頭に置きながらの対応になっていく。会議の合間で何か気付いたことがあれば、事務局へ適宜声をかけてほしい。
- ご発言通り、影響がかなり大きいという認識はあるため、慎重且つスピード感を持って検討していきたい。
- もし可能ならば会議をいつやるかの確定前に、こういった内容になりそうだという情報を流してもらえるとそれぞれ関係者の皆が安心できると思う。それでは他に意見がなければ、本日の議事を終了したいと思う。議事の進行についてご協力いただき感謝する。